

【質問】高齢者の薬物動態は？

【回答】

健康な非高齢男性(65歳未満)6例および65歳以上の高齢者9例にイミダフェナシン0.1mgを空腹時に単回経口投与した時、高齢者では C_{max} が非高齢男性に比べて1.2倍高かったが、 $AUC_{0-\infty}$ は、ほぼ同様でした。

投与日	Tmax (hr)	Cmax (pg/mL)	AUC ₀₋₁₂ (pg・h/mL)	T _{1/2} (hr)
高齢者	1.0 [1.0-2.0]	445±136	2,140±480	3.1±0.4

平均値 ± 標準偏差 Tmaxのみ中央値 [最小値-最大値]

投与日	Tmax (hr)	Cmax (pg/mL)	AUC ₀₋₁₂ (pg・h/mL)	T _{1/2} (hr)
非高齢者	1.5 [1.0-2.0]	382±106	2,010±1,050	2.6±0.7

平均値 ± 標準偏差 Tmaxのみ中央値 [最小値-最大値]

添付文書の記載は、以下の通りです。

6.用法及び用量

通常、成人にはイミダフェナシンとして1回0.1mgを1日2回、朝食後及び夕食後に経口投与する。効果不十分な場合は、イミダフェナシンとして1回0.2mg、1日0.4mgまで増量できる。

9.特定の背景を有する患者に関する注意

9.8 高齢者

一般に、生理機能が低下している。[16.6.1 参照]

出典：添付文書、インタビューフォーム